

1. 略歴

1994年3月	お茶の水女子大学文教育学部国文学科卒業
1994年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻修士課程入学
1997年3月	同 修了
1997年4月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程進学
2000年3月	同 修了
2000年3月	博士（文学）学位取得（東京大学）
2000年4月	椋山女学園大学人間関係学部専任講師
2003年4月	椋山女学園大学人間関係学部助教授
2007年4月	日本大学文理学部准教授
2013年4月	日本大学文理学部教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近世文学

b 研究課題

近世後期から明治前期の戯作と芸能を主な研究対象としている。作品読解を通じて表現の基底にある価値観や知識を明らかにすること、近世の娯楽文化をめぐる諸事象と現代文化との連続性を考察することを目標としている。

c 概要と自己評価

戯作の文体と表現様式の分析から出発し、長編合巻の翻刻と書誌学的研究、戯作者山東京伝に関する研究などを積み重ねてきた。近年は幕末・明治に活躍した落語家三遊亭円朝の作品研究や、戯作に対する出版統制の実態解明にも力を注いでいる。これまで、近世後期の合巻に関する研究成果をまとめた『江戸の絵入小説—合巻の世界—』（ぺりかん社、2001）、山東京伝の評伝をまとめた『山東京伝—滑稽洒落第一の作者—』（ミネルヴァ書房、2009）、古典を中心とする日本文学に描かれた妖術使いについて考察した『妖術使いの物語』（国書刊行会、2009）、戯作に対する出版統制について考察した『江戸の出版統制—弾圧に翻弄された戯作者たち—』（吉川弘文館、2017）などを発表している。

2018・2019年度は研究成果を一般向けにわかりやすく伝える仕事に精力的に取り組むとともに、時代横断的な研究テーマの開拓に努めた。

d 主要業績

(1) 論文

佐藤至子、「文を見る・絵を読む」、『近世文学史研究』、3、pp.65-79、2019.11

佐藤至子、「身の上を語る異類—黄表紙と合巻における擬人化についての考察—」、『東京大学国文学論集』、15、pp.171-183、2020.3

(2) 啓蒙

佐藤至子、「江戸文学に登場する悪人」、『江戸の悪 PART II』、pp.193-197、2018.6

佐藤至子、「芸芸が描いた遊里」、『東京人』、403、pp.60-64、2018.11

佐藤至子、「御伽草子と戯作における擬人化表現」、『文化交流研究』、32、pp.25-31、2019.3

佐藤至子、「千手観音の「手」のゆくえ 『大悲千祿本』」、「紙上でみせる架空の歌舞伎 『正本製』」、「妖術使いと三すくみ 『児雷也豪傑譚』」、「歌舞伎役者の幽霊と化け猫 『百猫伝』」、「旅する藪医者の三都物語 『竹斎』」、「廓遊びの虚々実々 『傾城買四十八手』」、「江戸っ子が書く光源氏の物語 『彦紫田舎源氏』」、「『奇』と『妙』の江戸文学事典」、pp.30-35,133-138,194-200,208-213,286-291,385-390,488-494、2019.5

佐藤至子、「草双紙における絵と文はどう関わるのか」、『古典文学の常識を疑う II 縦・横・斜めから書きかえる文学史』、pp.208-211、2019.9

(3) 講演

佐藤至子、「Japanese early-modern playful literature (geasku) and censorship 江戸の戯作と出版統制」、ケンブリッジ大学（英国）、2018.11

3. 主な社会活動

(1) **他機関での講義等**

早稲田大学大学院非常勤講師、2018年度

(2) **学会**

日本近世文学会、常任委員、2018・2019年度

(3) **学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員**

国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター、拠点連携委員、2019年度